

令和6年度 卒業時における学習・進路に関する
アンケート調査報告書

令和7年3月
キャリア教育委員会

令和6年度「卒業時における学習・進路に関するアンケート」調査報告

1. 卒業時における学習・進路及び本学に対する満足度等のアンケート調査

2年間の修学を終えて卒業を迎える学生を対象に、本学の教育内容や教育環境等に対する意見を聴取することを目的に、「卒業時における学習・進路に関するアンケート」調査を実施した。

アンケートは20の設問があり、各設問に対して5つの選択肢から1つ選ぶ形式である(設問(16)、(19)は2つまで選択)。令和6年度の卒業者に対して、卒業式翌日までに実施し39名から回答を得た。以下にそのアンケート調査の結果を示す。

2. 調査結果について

以下に設問順に集計結果を示す。比較のため、令和4年度及び令和5年度の結果を示した。表・図に示す数値は%である。

(1) 本学に進学した理由について(設問(1), (2))

設問(1)の本学を進学先に選んだ理由について、「[1]学びたい専門分野・資格に関する授業があったから」や「[2] 専門学校より教養を身に付けることができと思ったから」と回答した学生の割合は69.3%であり、多くの学生が学びたい専門分野・資格や教養教育を主な理由として挙げている。また「[4]就職あるいは大学編入に有利だと思ったから」や「[5]四年制大学より早く就職し社会に出られるから」と回答した学生の割合は20.6%と最近の結果と比較して増加傾向にあることから、学生の進学に関する考え方が現実的な傾向や経済的な理由が続いていることが考えられる。

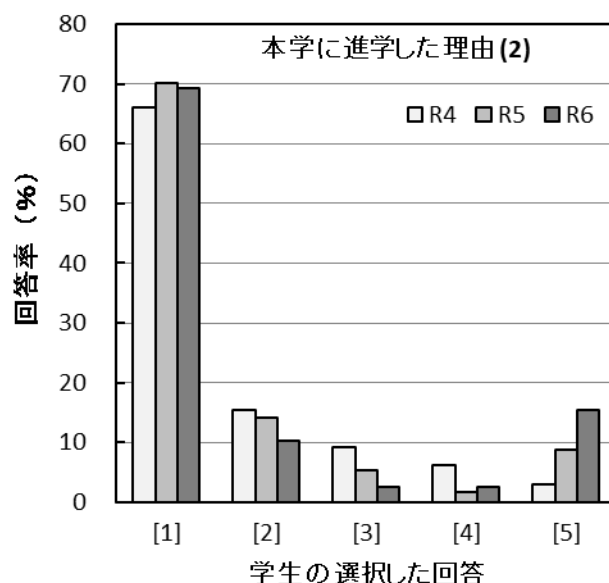
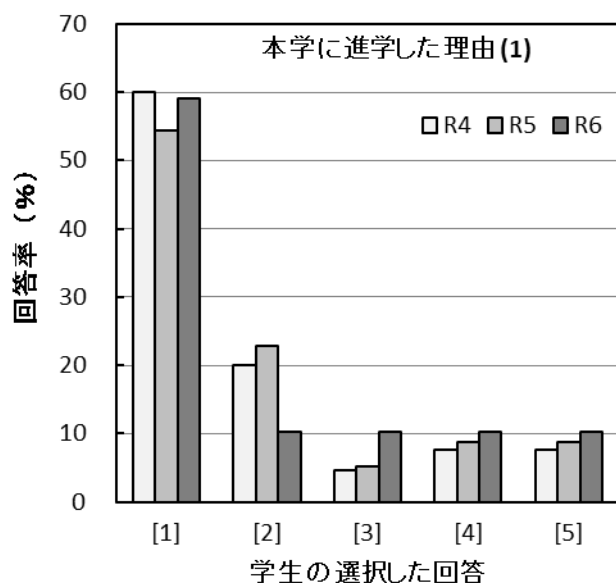
設問(1):本学へ進学した理由について、次の選択肢の中から主な理由を1つ選択してください。

回 答	R4	R5	R6
[1] 学びたい専門分野や取得したい資格に関する授業があったから	60.0	54.4	59.0
[2] 専門学校より教養を身に付けることができと思ったから	20.0	22.8	10.3
[3] キャンパスや教育設備等が優れていると思ったから	4.6	5.3	10.3
[4] 就職あるいは大学編入に有利だと思ったから	7.7	8.8	10.3
[5] 四年制大学より早く就職し社会に出られるから	7.7	8.8	10.3

設問(2)にある本学を進学先に選んだ理由として、「[1]親や友人・高校の進路担当者等から勧められたから」と回答した割合は69.2%であり、昨年度と同様の結果となった。一方で、「[2] 自分の学力に合っていたから」や、「[3] 自宅から通える距離だから」は若干の減少、「[4] 志望した学校に進学できなかった、あるいは就職ができなかったから」は若干の増加が見られ、選択理由の分散が起きていることが推察される。しかしながら「[5]その他」が大きく増加しており、その理由については自由記述の設定が無かったため不明であることから、設問の再設定が必要と考える。

設問(2):本学へ進学した理由について、次の選択肢の中から主な理由を1つ選択してください。

回 答	R4	R5	R6
[1] 親や友人・高校の進路担当者等から勧められたから	66.2	70.2	69.2
[2] 自分の学力に合っていたから	15.4	14.0	10.3
[3] 自宅から通える距離だから	9.2	5.3	2.6
[4] 志望した学校に進学できなかった、あるいは就職ができなかったから	6.2	1.8	2.6
[5] その他	3.1	8.8	15.4



(2) 講義、演習、実習の内容や設備、キャンパスの各種施設について(設問(3)～(7))

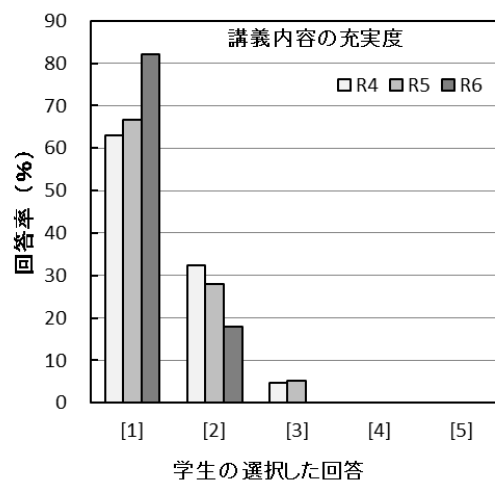
設問(3)～(7)は授業の内容や実験・実習設備等に関する満足度、図書館、体育館や食堂等のキャンパス・アメニティを含めた各種施設に対する学生の満足度を調べたものである。

設問(3)の「講義に関する内容の充実」、設問(4)の「教材やテキスト及び指導法」、設問(5)の「実習や演習の内容」に関して、「[1]そう思う」と「[2]まあそう思う」と回答した割合は、それぞれ100%であり、多くの学生が満足を示している。これらの割合は、教員の授業等に対する創意工夫や コース分けが反映されていると考えられる。また、設問(6)の「実習等の施設設備の充実」に関しても、100%の学生が「[1]そう思う」と「[2]まあそう思う」と回答しており、多くの学生が満足して卒業したと考えられる。本学を進学先として選択する時点では、設問(1)中の「キャンパスや教育設備等が優れている」ことを理由に挙げた学生は10.3%と少なかった。しかし、卒業時において多くの学生が講義内容や実験・実習設備等に関して高い満足度を示していることは、在籍期間中において学生の本学に対する捉え方が変化してきたと考えられる。

設問(7)の「キャンパスの各種施設の充実度」に関して、「[1]そう思う」と「[2]まあそう思う」と回答した割合は97.4%であった。「[3]どちらともいえない」と回答した学生の割合は2.6%を示し過去の調査と比較して半減しているが、各種施設について継続的に点検をしていくことが必要である。

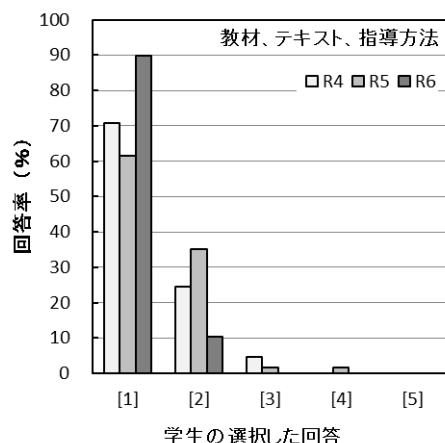
設問(3): 概念や理論等に関する講義の内容は充実していましたか。

回 答	R4	R5	R6
[1] そう思う	63.1	66.7	82.1
[2] まあそう思う	32.3	28.1	17.9
[3] どちらともいえない	4.6	5.3	0.0
[4] あまりそう思わない	0.0	0.0	0.0
[5] そう思わない	0.0	0.0	0.0



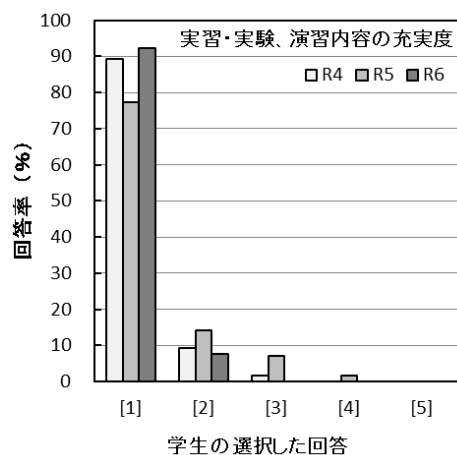
設問(4):教材やテキスト及び指導方法は良かったですか。

回 答	R4	R5	R6
[1] そう思う	70.8	61.4	89.7
[2] まあそう思う	24.6	35.1	10.3
[3] どちらともいえない	4.6	1.8	0.0
[4] あまりそう思わない	0.0	1.8	0.0
[5] そう思わない	0.0	0.0	0.0



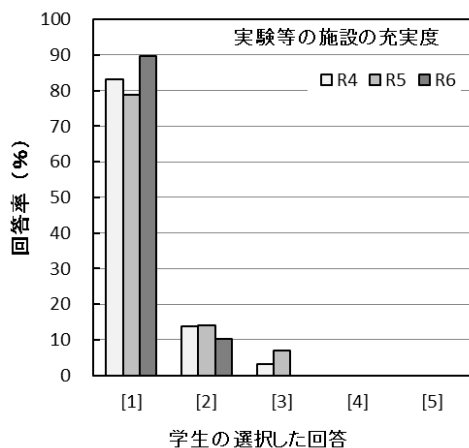
設問(5):実習・実験・演習の内容は充実していましたか。

回 答	R4	R5	R6
[1] そう思う	89.2	77.2	92.3
[2] まあそう思う	9.2	14.0	7.7
[3] どちらともいえない	1.5	7.0	0.0
[4] あまりそう思わない	0.0	1.8	0.0
[5] そう思わない	0.0	0.0	0.0



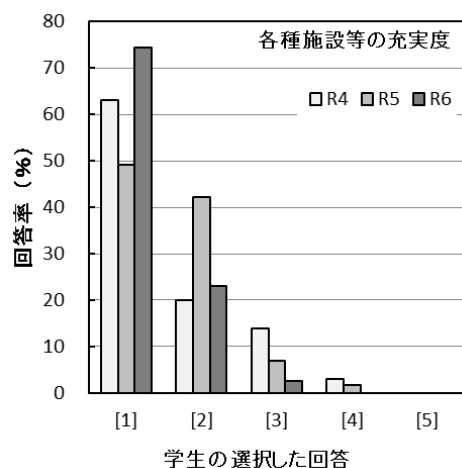
設問(6):実習・実験に関する設備は充実していましたか。

回 答	R4	R5	R6
[1] そう思う	83.1	78.9	89.7
[2] まあそう思う	13.8	14.0	10.3
[3] どちらともいえない	3.1	7.0	0.0
[4] あまりそう思わない	0.0	0.0	0.0
[5] そう思わない	0.0	0.0	0.0



設問(7):キャンパスの各種施設(図書館、食堂、体育館等)は充実していましたか。

回 答	R4	R5	R6
[1] そう思う	63.1	49.1	74.4
[2] まあそう思う	20.0	42.1	23.1
[3] どちらともいえない	13.8	7.0	2.6
[4] あまりそう思わない	3.1	1.8	0.0
[5] そう思わない	0.0	0.0	0.0



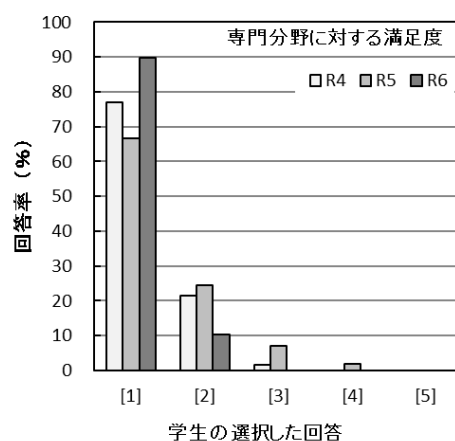
(3) 学生時代の学習状況について(設問(8)～(11))

設問(8)～(11)は「専門分野や教養科目に関する学習ができたか」、「出席状況がどの程度だったか」など、学生時代の学習状況を問う項目である。

設問(8)の「専門分野で深い学習ができたか」と設問(9)の「専門分野以外の周辺の知識や教養などに関しても幅広い学習ができたか」に関して、「[1]そう思う」と「[2]まあそう思う」と回答した割合は100%を示し、多くの学生が満足して卒業したと考えられる。また、設問(10)の「補習授業や資格取得に関する特別講義・実習等が適切に開講されていたか」に関して、97.4%の学生が評価していた。設問(11)の「授業への出席率」では、「[1] ほぼ出席」と「[2]どちらかといえば出席」と回答した割合は94.9%と例年より微減しているものの、「[3] 半分程度は出席」が例年の倍に増加していることから、対策が必要と考える。

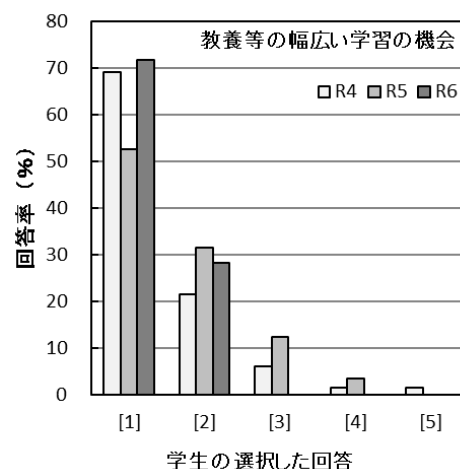
設問(8): 専門分野について専門的で深い学習ができましたか。

回 答	R4	R5	R6
[1] そう思う	76.9	66.7	89.7
[2] まあそう思う	21.5	24.6	10.3
[3] どちらともいえない	1.5	7.0	0.0
[4] あまりそう思わない	0.0	1.8	0.0
[5] そう思わない	0.0	0.0	0.0



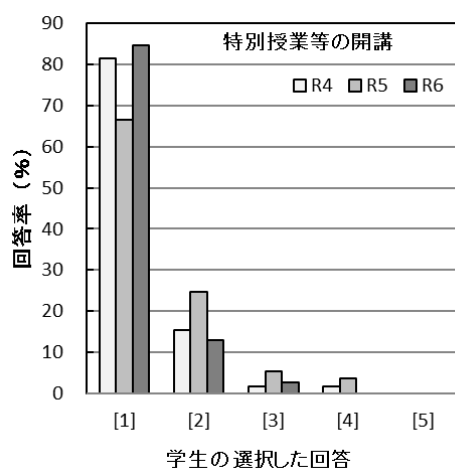
設問(9): 専門分野以外の周辺の知識や教養など幅広い学習ができましたか。

回 答	R4	R5	R6
[1] そう思う	69.2	52.6	71.8
[2] まあそう思う	21.5	31.6	28.2
[3] どちらともいえない	6.2	12.3	0.0
[4] あまりそう思わない	1.5	3.5	0.0
[5] そう思わない	1.5	0.0	0.0



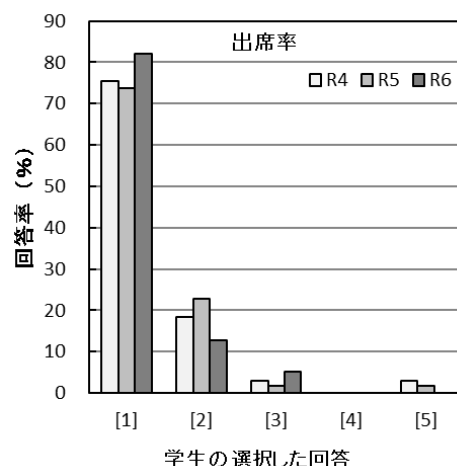
設問(10): 補習授業や資格取得に関する特別講義・実習等は適切に開講されていましたか。

回 答	R4	R5	R6
[1] そう思う	81.5	66.7	84.6
[2] まあそう思う	15.4	24.6	12.8
[3] どちらともいえない	1.5	5.3	2.6
[4] あまりそう思わない	1.5	3.5	0.0
[5] そう思わない	0.0	0.0	0.0



設問(11):授業への出席率はどのくらいでしたか。

回 答	R4	R5	R6
[1] ほぼ出席	75.4	73.7	82.1
[2] どちらかといえば出席	18.5	22.8	12.8
[3] 半分程度は出席	3.1	1.8	5.1
[4] やや欠席が多い	0.0	0.0	0.0
[5] 欠席が多い	3.1	1.8	0.0



(4) 出席に対する指導、学習や進路に関する指導及び卒業後の進路について(設問(12)～(15))

設問(12)～(14)は出席状況に対する指導、成績の評価方法及び進路に関する指導についての質問である。

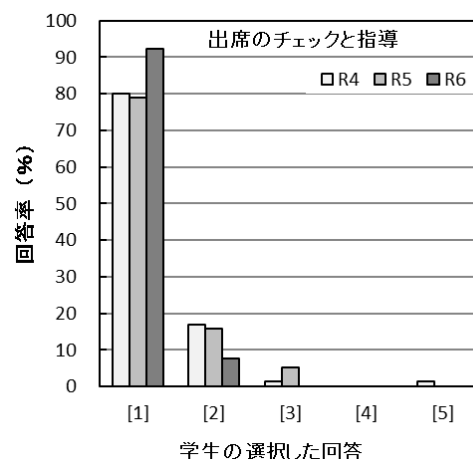
設問(12)は「出席状況に対する指導は適切であったか」に関するものである。「[1]そう思う」と「[2]まあそう思う」を合わせると100%の学生が適切と回答しており、科目担当者やクラス担任が学生の出席状況を把握し、適切な指導が行われていると学生は感じていることを示している。設問(13)の「成績の評価は適切であったか」に関しても、「[1]そう思う」と「[2]まあそう思う」と回答した割合は97.4%であり、多くの学生が成績評価を適切と考えている。シラバスに記載した成績評価の方法が適切に実施されていることを示している。

設問(14)の「就職・進学に関する指導は適切だったか」に関して、「[1]そう思う」と「[2]まあそう思う」と回答した学生の割合は100%であった。この結果は、就職支援室をはじめ、クラス担任や全教職員の適切な指導の結果を反映していると考えられる。

設問(15)の「卒業後の進路」に関して、「[1] 内定した企業に就職/合格した学校に進学」の回答が卒業時100%となった。昨年と同様に就職が早く決まり、その後も内定者と企業間で定期的に連絡を取り入社後、職場環境に早くなれるように配慮されたことから、このような結果となったと考えられる。

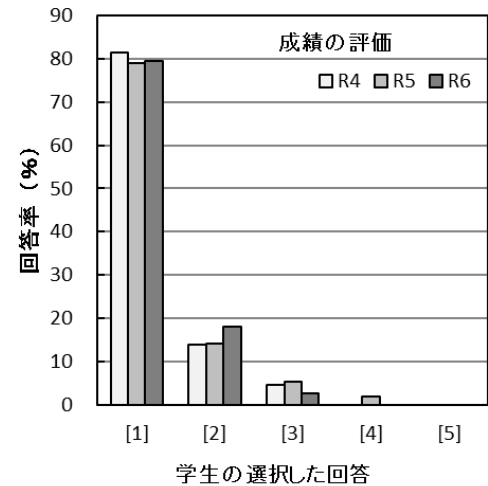
設問(12):出席状況について、チェックや指導は適切でしたか。

回 答	R4	R5	R6
[1] そう思う	80.0	78.9	92.3
[2] まあそう思う	16.9	15.8	7.7
[3] どちらともいえない	1.5	5.3	0.0
[4] あまりそう思わない	0.0	0.0	0.0
[5] そう思わない	1.5	0.0	0.0



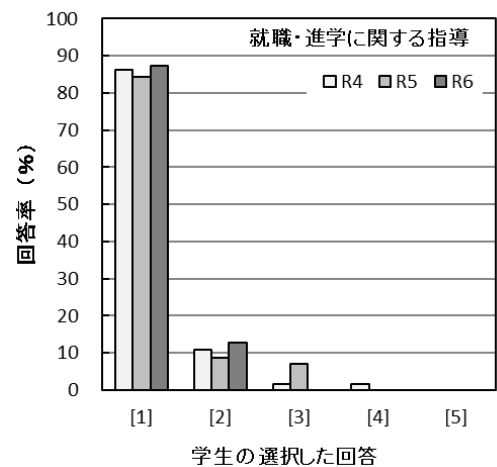
設問(13): 定期試験や実習・演習の課題等
による成績の評価は適切でしたか。

回 答	R4	R5	R6
[1] そう思う	81.5	78.9	79.5
[2] まあそう思う	13.8	14.0	17.9
[3] どちらともいえない	4.6	5.3	2.6
[4] あまりそう思わない	0.0	1.8	0.0
[5] そう思わない	0.0	0.0	0.0



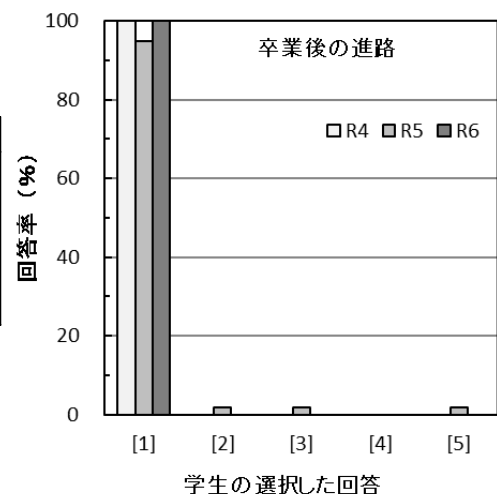
設問(14): 就職・進学に関する指導は適切で
したか。

回 答	R4	R5	R6
[1] そう思う	86.2	84.2	87.2
[2] まあそう思う	10.8	8.8	12.8
[3] どちらともいえない	1.5	7.0	0.0
[4] あまりそう思わない	1.5	0.0	0.0
[5] そう思わない	0.0	0.0	0.0



設問(15): 卒業後の進路について。

回 答	R4	R5	R6
[1] 内定した企業に就職/合格した学校に進学	100.0	94.7	100.0
[2] これから就職先/進学先を探す	0.0	1.8	0.0
[3] アルバイト(フリーター)	0.0	1.8	0.0
[4] 家事手伝い(自営業を手伝う場合は[1])	0.0	0.0	0.0
[5] その他	0.0	1.8	0.0



(5) 在学中の活動について(設問(16)～(18))

設問(16)～(18)は在学中に力を注いだ活動や就業体験を尋ねたものである。設問(16)は、適切な項目を2つまで選択をしてもらった。

設問(16)は「在学中に力を注いだ活動」を問うものであり、記載した項目を2つまで選択するものである。今年度はコロナ渦が落ち着いた影響もあり「[1] 授業や資格取得のための勉強」と回答した割合は昨年迄と同様に多いことに加えて、「[4] 友人との交流」が 21.7%と学生らしい生活に戻ったことが見られた。

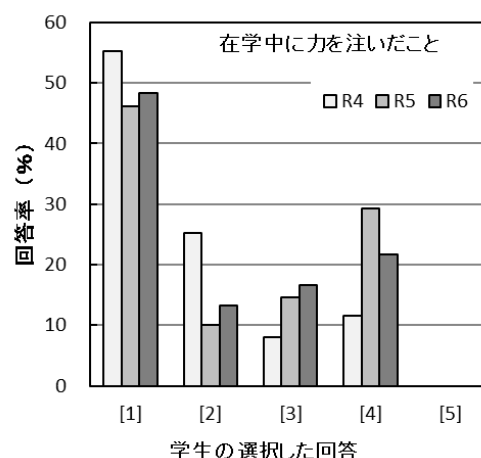
設問(17)の「在学中のアルバイト等」に関するもので、「[1] 週に3日以上」と回答した割合が最も多く、

53. 8%の学生が回答している。「[2]週に1～2日程度」と回答したものの合計では74. 3%となり、この高い傾向は、学生の生活状況、家庭環境を反映していることも考えられるが、勉学とのかね合いに問題を生じる学生も存在し、今後も学生の状況を配慮した個別指導が必要と考える。

設問(18)の「就業体験の内容」では、本学での学習内容と「[1]関連している」と回答した学生の割合が46. 2%と昨年度と比較して急激に増加している。これは自動車業界の労働力不足からの時給単価上昇もその要因の一つと考える。一方で「[5] 関係していない」と回答した割合が30. 8%と横ばい傾向を示し、自動車業界以外でも学生アルバイトの需要が増加していると考ええる。

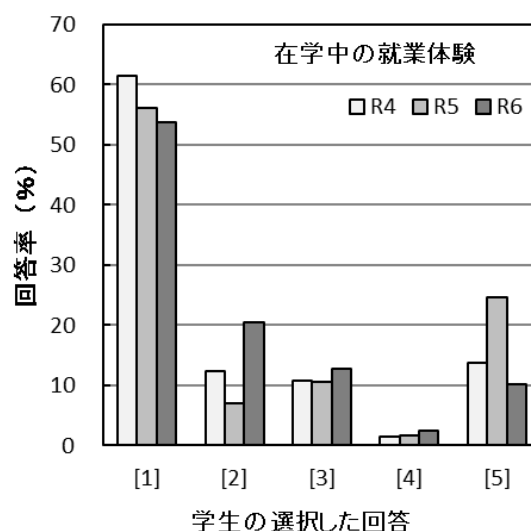
設問(16): 在学中に力を注いでいた活動を、
2つ選択してください。

回 答	R4	R5	R6
[1] 授業や資格取得のための勉強	55.2	46.1	48.3
[2] 就職活動、進学のための勉強	25.3	10.1	13.3
[3] クラブ・サークル活動、趣味	8.0	14.6	16.7
[4] 友達との交流	11.5	29.2	21.7
[5] その他	0.0	0.0	0.0



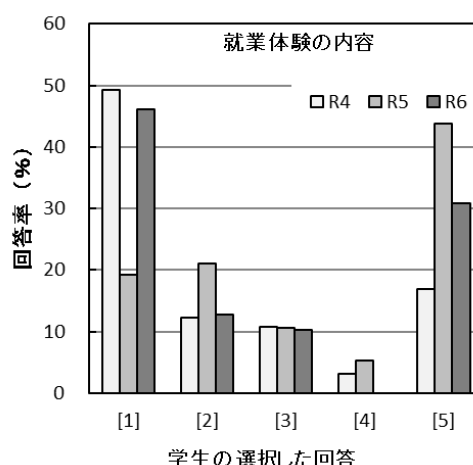
設問(17): 在学中に就業体験(アルバイト/
インターンシップ等)をしましたか。

回 答	R4	R5	R6
[1] 週に3日以上	61.5	56.1	53.8
[2] 週に1～2日程度	12.3	7.0	20.5
[3] 長期の休暇時	10.8	10.5	12.8
[4] インターンシップ	1.5	1.8	2.6
[5] その他	13.8	24.6	10.3



設問(18): 就業体験の内容は、本学での
学習内容と関連していますか。

回 答	R4	R5	R6
[1] 関連している	49.2	19.3	46.2
[2] どちらかといえば関連している	12.3	21.1	12.8
[3] どちらともいえない	10.8	10.5	10.3
[4] どちらかといえば関連はない	3.1	5.3	0.0
[5] 関連していない	16.9	43.9	30.8



(6) 大学生活で有意義だったこと、及び全般的な満足度について(設問(19)、(20))

設問(19)では「大学生活において有意義だったこと」を2つまで選択してもらった。最も多かったのが「[1]知識や技術が修得できた/資格が取得できた」が44.1%、「[2]進路(就職/進学)が確定できたこと」が20.6%であった。[1]と[2]、これらを合わせて64.7%の学生が資格取得と進路の決定状況に満足している。また、[4]と評価した学生が23.5%居る中で、「[3]クラブ・サークル活動、趣味等で充実していたこと」をあげた学生が11.8%であった。入学時はコロナ禍で学生間の密接な人間関係を築きにくい中、有意義と感じた学生が多かったものと考えられる。

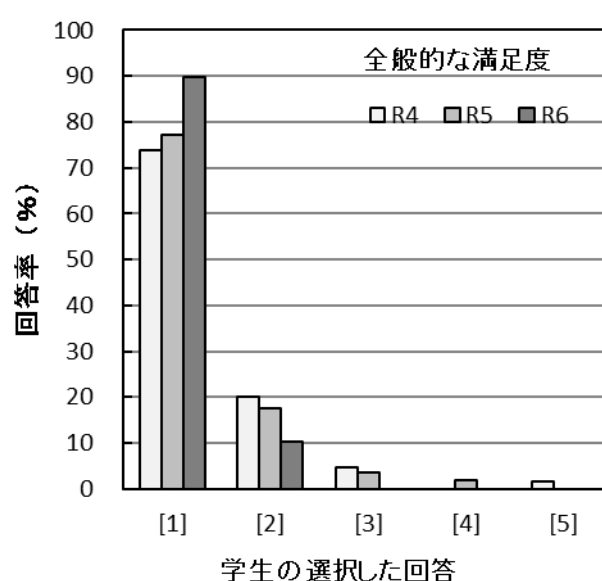
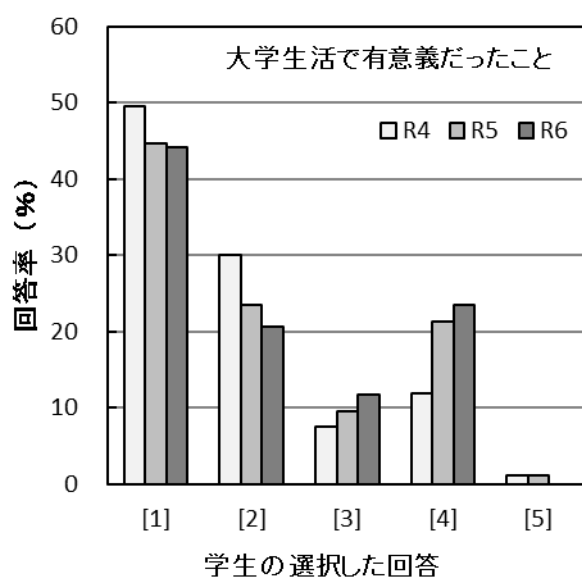
設問(20)は「学生生活は満足できるものであったか」であり、「[1]満足」と「[2]まあ満足」と回答した割合は合わせ100%であり、高い満足度を維持することが出来おり、多くの学生が本学での学生生活に満足して卒業したと考えられる。

設問(19): 学生生活において有意義だったと思うものを、2つまで選択してください。

回 答	R4	R5	R6
[1] 知識や技術が修得できた/資格が取得できたこと	49.5	44.7	44.1
[2] 進路(就職/進学)が確定できたこと	30.1	23.4	20.6
[3] クラブ・サークル活動、趣味等で充実していたこと	7.5	9.6	11.8
[4] 友達との交流ができたこと	11.8	21.3	23.5
[5] その他	1.1	1.1	0.0

設問(20): 学生生活は満足できるものでしたか。

回 答	R4	R5	R6
[1] そう思う	73.8	77.2	89.7
[2] まあそう思う	20.0	17.5	10.3
[3] どちらともいえない	4.6	3.5	0.0
[4] あまりそう思わない	0.0	1.8	0.0
[5] そう思わない	1.5	0.0	0.0

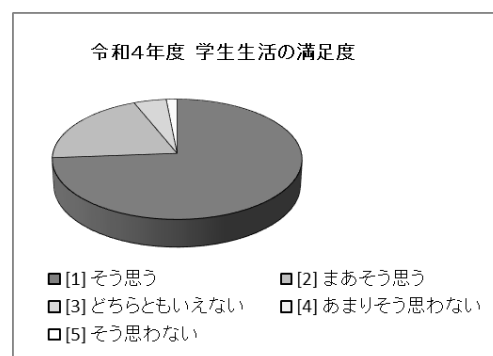
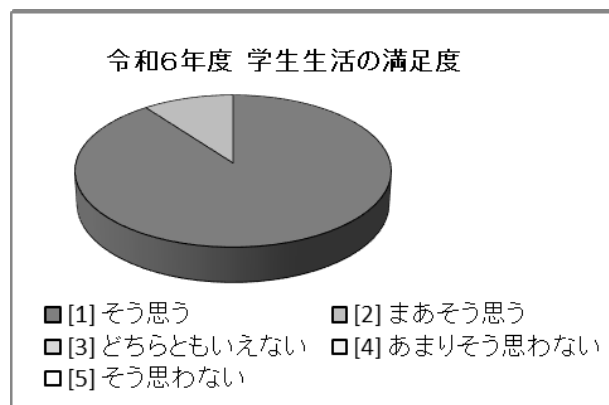


3. まとめ

右図は、「学生生活の満足度」に関して、学生が回答した割合を示したものである。参考のため、令和4年度の結果も示した。調査の結果、100%の学生が「[1] そう思う」あるいは「[2] まあそう思う」と回答し、令和4年度と比較して高い満足度を示している。

専門分野について専門的で深い学習ができたかや補習授業や資格取得に関する特別講義・実習などが適切に開講されていたかに関して、それぞれ100%、97.4%の学生が「[1] そう思う」「[2] まあそう思う」と回答している。このことは本学の高い就職率・国家資格合格率からつながる結果と考えられ、今後もこれらの努力を継続しなくてはならない。

設問(2)で、本学へ進学した理由として「親や友人・高校の進路担当者等から勧められたから」と回答した学生が69.2%と最も多かったが、例年以上にその理由の多様化が示された。このことは、本学の教育活動や良好な教育環境について、認識されてきているものと考えられる。



4. おわりに

令和6年度に行った卒業時における学生生活に関するアンケート調査の結果をまとめたものである。調査の結果、全体としては、コロナが第5類となり、コロナ禍前と同様に入学時からマスク着用の義務がない対面での授業、実習等の活動が再開し、日常生活のなかで学生間の交流や資格取得に向けた取り組み等の結果が学生の満足度や充実度に繋がったものと推測されるが、進学時の選択理由や在学中の活動の多様性の結果から、学生一人ひとりに寄り添うような取り組みが必要になるともとれる内容であった。

本学に対する評価として、就職先企業による評価とともに、卒業生の評価は非常に重要である。今後も教職員が連携して教育活動に励み、より多くの卒業生から評価される大学になるよう努めていく。

令和7年3月31日
キャリア教育委員会